

2021年4月5日 令和3年度 森ノ宮医療大学入学式

新入生の諸君、森ノ宮医療大学へのご入学、誠におめでとうございます。このような素晴らしい天候の中、このスタジアムで皆さまを対面でお迎えできたこと、大変嬉しく思います。教職員一同を代表して心より歓迎いたします。また、保護者の皆様もさぞお喜びのことと思います。心よりお祝いを申し上げたく存じます。そして、御来賓の皆様におかれましては、平素の御指導・御支援に加え、本日のご臨席に深く感謝申し上げます。

さて、皆さんが入学された森ノ宮医療大学は、平成19年に開学した、まだ若い大学です。開学当時、2学科のまだ小さな大学でしたが、わずか10数年程度で7学科1専攻科ならびに大学院を設置する、関西屈指の医療系総合大学として確固たる地位を築くまでに至りました。学外からも高い評価を頂いており、リクルート進学総研が実施した「進学ブランド力調査」においては、関西エリアの保健医療分野で本学が2年連続志願度1位、医療系大学としては、まさに関西圏トップクラスと自負しております。そのような中、見事、入学を勝ち取られた皆さんは、どうか、胸を張り、自らに自信を持っていただきたいと思います。そして、教職員一同、選ばれし皆さんを“優れた医療人として立派に教え育てる”、・・・そのように心新たにしております。

さて、昨年度は大変な1年でした。新型コロナウイルス感染症 COVID-19 のパンデミック、これはまさに人類史上未曾有の困難とも言えるものです。医療が、そして世界が激変したと言っても過言ではありません。そのような中、なおも医療職を目指され、不自由を強いられながらも強靱な意志で勉学にはげみ、そして入学を勝ち取った皆さんには、まずは心より敬意を表したいと思います。

このような世界的危機を目の当たりにし、皆さんも様々なことを感じ、考えられたことと思います。特に価値観・考え方の多様性というものを再認識されたのではないのでしょうか。新型コロナウイルスに対する考え方や恐怖には、個人個人で非常に大きな温度差があります。若年層と高齢者の重症化リスクの違いから、世代間によっても大きな乖離が見られますし、自粛行動が致命的となる職種、あまり影響がない職種、職種によっても、考え方は大きく異なっています。このような価値観、考え方、あるいは立場の違いは、自粛警察などの言葉を生み出し、感染者や医療従事者への心無い差別にもつながり、そして、経済活動と感染対策のはざま、あるいは自由と規制のはざま、この乖離が社会を分断しかねない状況を世界中で引き起こしました。そしてそのような中、一丸となってウイルスに立ち向かうことの困難さを多くの方が痛感しています。医療現場もまさにそのような状況にあります。しかし、ここには我々医療人にとって、改めて思い返すべき、いくつかの教訓があります。

医療の世界では、いかなる立場の患者も、どのような価値観を持つ患者も、平等に最良の治療を受ける権利があり、また医療人にはどんな患者にもそれを提供する義務があります。

すなわち、皆さんは、患者との立場や価値観の違いを乗り越えて、そして理解し、同じ平面で同じ方向を向く必要があるということです。そしてこれは、本学が重視するチーム医療においても同様です。専門性やバックボーンが異なる多職種がチームとして機能するためには、価値観や考え方の違いを乗り越えて協働しなければならないということです。そしてそのための武器がコミュニケーションスキルではないでしょうか。コミュニケーションは、単に、聞く・伝えるということだけではなく、異なる価値観を統合するための重要なツールとも言えます。優れたコミュニケーション能力は、現場で患者と向かい合うための、あるいはチーム医療を牽引するための、そして、多様な価値観が交錯する社会で活躍するための大きな武器であるということが、コロナ禍において改めて認識されたように感じています。

本学の多職種連携教育、すなわちチーム医療教育でも、コミュニケーションスキルの獲得を大変重要視しています。多職種連携教育は、多種多様な医療職養成学科を有する本学の最大の強みです。体験型で実践的なチーム医療教育で、知識の幅を広げるだけでなく、バックボーンの異なる、様々な価値観を持つ他者と接することで、医療コミュニケーションスキルをしっかりと身につけてください。多様な価値観を認め、尊重し、その中でリーダーシップを取れる社会人に成長して頂きたいと願っています。

そして今なお、新型コロナウイルスのパンデミックは収束していません。アフターコロナというにはまだもう少し時間がかかりますし、しばらくはウィズコロナという厳しい状況が続くでしょう。このウィズコロナ時代の医療に、あるいは社会に、今、最も求められているのが、若い活気ある医療人、すなわち、本日入学された皆さんです。

看護学科の皆さん。最前線で患者と接しコロナウイルスと戦うのが看護師です。コロナ病床不足の最大のネックは看護師の確保でした。あなたたちなくしてあらゆる医療は成り立ちません。そして、理学療法学科・作業療法学科の皆さん。闘病で低下したADLを退院可能なレベルまで改善させる、すなわち、身体の機能と社会適応能力を回復させるリハビリテーションを担うのが皆さんです。生活の質に直結する、この大切な機能を取り戻せるかどうか、これは皆さんの力にかかっています。臨床検査学科の皆さん。今回コロナウイルス感染症の検査としてPCR検査が有名になりました。このPCR検査で活躍するのが皆さん臨床検査技師です。医療には様々な検査がありますが、皆さんにより得られるデータなくして診断も治療も成立しません。そして臨床工学科の皆さん。最重症例で使用する人工心肺、エクモ。皆さんはそのスペシャリストになります。あなたたちがいなければ、エクモや人工心肺・透析など高度な医療機器は動かすことはできません。診療放射線学科の皆さん。コロナウイルス肺炎の診断に欠かせないレントゲンやCT検査。これら画像検査で大活躍するのがあなたたち診療放射線技師です。診断だけでなく、放射線治療などの高度な治療分野にも皆さんの力が必要です。そして鍼灸学科の皆さん。全く異なる、別のアプローチで患者に対応する鍼灸師。近年クローズアップされている補完代替医療は古くて新しい分野であり、皆さんこそがその担い手です。助産学専攻科の皆さん。どんなに困難な時代でも、生命の誕生は人類の

営みをつないでいく、祝福すべき素晴らしいことです。あなたたち助産師は、社会に希望を与える、この生命の誕生に関わる大切な医療職です。最後に大学院入学の皆さん。知の力による貢献もまた、現場での貢献と等しく大切なことです。感染症をはじめ、さまざまな疾患に苦しむ患者さんたちは、皆さんの知の力に期待しています。

このように皆さんは、ウィズコロナの時代にあって、いまだかつてないほど期待されています。どうか、そのことを忘れず、その自覚をしっかり持ち、学生時代を有意義に過ごしていただきたいと思います。コロナウイルスはまだ収束していませんが、人類の叡智はこの感染症を必ず克服すると私は信じています。そしてそこに皆さんの若い力を是非貸していただきたい、こう思っております。明日から、皆さんの大学生活が始まります。人々に尽くす医療人のすばらしさを改めて認識し、ここに、再び決意を新たにしてください。そして、本学の学びで、科学的な思考と患者に寄り添う人間性を合わせ持つ、すばらしい医療人に育てほしいと切に願っております。

最後になりましたが、ご家族の皆さまにもお願い申し上げたいと思います。ご子息・ご息女様は見事本学に合格され、これから自立した大学生活を送ることになります。しかし、まだまだ大きなハードルがございます。ようやく大学受験が終わったところではございますが、今しばらく、ご子息・ご息女様にご支援を賜りたいと存じます。もちろん、本学も全力でサポートさせていただきます。そして、4年後、卒業式で、医療人として立派に成長したお子様の姿を、ともに喜ぶことができれば、何よりの幸せでございます。どうか、よろしくお願い申し上げます。

それでは、皆さん、明日から新しい生活が始まります。積極性と好奇心をもって、しかし節度と責任をもって、何より本学にふさわしい、あるいは医療人を目指す学生にふさわしい品位と品格をもって、貴重な大学生活を是非謳歌してください。令和3年度、森ノ宮医療大学入学生 525 名の輝かしい前途を祈念しております。本日は誠にありがとうございます。

令和3年4月5日

森ノ宮医療大学学長 青木元邦